

VIII 学会発表

災害時保健活動における平常時の市町支援から見た保健所の役割

1) 後藤田芽衣 三木玲子 西谷範子 原美智代 大木元繁 2) 多田美由貴

1) 徳島県西部総合県民局保健福祉環境部（美馬保健所） 2) 徳島大学大学院医歯薬学研究部地域看護学分野

はじめに

令和6年能登半島地震の災害派遣での経験から、保健所と管内市町との平常時から連携が非常に重要であると実感した。そこで、平時の体制整備及び顔の見える関係性を構築することを目的に、保健所管内の市町と合同研修会を開催するとともに、アンケートを実施し、今後の管内保健衛生部門の災害対策について課題と保健所の役割について検討したので報告する。

方法

美馬保健所保健師及び管内1市1町の保健師と危機管理担当者を対象に、「災害時保健衛生活動研修会」を2回開催し、災害時の役割について理解を深めるための能登半島地震派遣報告会及び演習・意見交換会を実施した。各研修会終了後、参加者にアンケートを実施し記載内容から、平常時の災害対策の取組状況と今後取り組むべき課題について検討した。

1. 対象者：1回目 28名、2回目 19名

2. アンケート内容

「担当している業務で、現在災害対策として取り組んでいること」、「担当している業務で、災害対策として課題だと思うこと」、「災害対策について今後どのように取り組もうと考えているか」の全項目を自由記述回答とした。アンケート記載内容を集計・分類し、分析を行った。

結果

アンケートの結果、参加者全員から回答を得た。「担当している業務で災害対策として取り組んでいること」としては、「訪問時に要配慮者がいるかを確認」、「ケース台帳での管理」等、平常業務に付随した取組が多くなされていた。また、「マニュアル整備」、「BCP作成」等、体制整備についての取組もあがった。

「担当している業務で、災害対策として課題だと思うこと」としては、「災害対策の取組はしておらず、何から取り組むかわからない」、「台帳等のデータ管理・情報の共有」が一番多かった。「平常時から台帳を作成しているが、課・担当ごとの各所属管理となっていることや、データとして管理ができていないことから、

災害時すぐに使えるものにはなっていない」という意見も見られた。

「災害対策について今後どのように取り組もうと考えているか」については、「マニュアルの確認・見直し」、「災害時活動のための話合いの場の設置」の2つが意見として多く挙げられた。

考察

アンケート結果から、要配慮者台帳等の情報のデータ管理に課題があることが明らかになり、管内市町では保健師が業務ごとに分散配置されていることで、管理が各所属単位となり、市町全体での課題として共有し難い現状があると考えられる。しかし今回、保健所からデータをクラウドで管理する必要性を提言することにより、市町の危機管理部局とともに住基データも含めたシステム構築に一步前進したと考える。

また、平常時から災害対策についてなかなか取り組めていないという課題を有していることも明らかになり、今後取り組むべきこととして、基本的なマニュアルの確認等、一人一人が平常時から災害を意識した取組から始めることが重要である。

このことから、保健所の役割として、市町村保健衛生マニュアルの整備に係る支援や、今後も継続して災害時の保健衛生活動について、定期的に研修会・訓練を開催し、一人一人の意識向上及び顔の見える関係性を構築していく必要がある。また災害発生時には、組織横断的な連携も欠かせないため、研修会や演習の場が、災害時活動のための話合いの場として機能し、市町全体の災害対策へと繋げていくことが今後必要であると考ええる。

おわりに

研修会等を通して、保健師の災害対策について危機意識の高まりを感じることができた。また、市町を支援する中で保健所の機能強化の必要性にも気づき、災害時保健所機能を継続的に発揮するために、初動対応マニュアルやBCPを実態に合わせて定期的に見直すことや、所内訓練や研修会の開催といった人材育成に取り組むことも併せて必要であると考ええる。

